

伝統的琉球民家の西側空間の構成を明らかにする

—伊是名集落後辺（くしひん）の民家の実測に基づく探求—

日大生産工(院) ○関 千穂子
日大生産工 篠崎 健一 准教授

1 はじめに

本稿では、沖縄県伊是名集落の後辺における民家の二番座の西側に隣接する空間の特徴を明らかにすることを目的とする。一般に、琉球民家の屋敷囲い内には主屋、アサギ、炊事屋があり、他の生活の機能は付属屋として西側に位置していた¹⁾。伝統的な形式を継承する民家においては、主屋東側に一番座と二番座が伝統的な空間構成を維持して存在するが、主屋西側には台所や浴室、便所などが多様な構成パターンをみせる。

2 現在の伊是名集落の民家

2014年から2017年の実測調査^{注1)}より、伊是名集落の民家の構造と平面構成を分類した。後辺^{注2)}の民家には7の型種があり^{2) 3)}、型A-1(木造単一)、型B-1(木造の四隅の一部または全てをRC(CB)壁で補強したもの)、型C(RC(CB)壁の臥梁が一周回るもの)、型D-1(RC造+木造小屋組)、型D-4(もとは付属屋であるもの)、型E-1(RC造+スラブ屋根で伝統的な形式が現れるもの)、型E-2(RC造+スラブ屋根で伝統的な形式が現れないもの)である(図1)。また、伝統的な形式に近い型種である型B-1が過半数を占め、後辺は伝統的な民家が多い地域であるといえる³⁾。

3 研究方法

伊是名集落後辺で実測した民家47軒のうち、一番座、二番座がある42軒を対象とする。本稿では、実測による平面図をもとに台所、浴室、便所の分布について考察し、二番座の西側と裏座、主屋の南外部への接続の仕方を整理する。

4 民家西側の空間構成

4-1 二番座西側と表座、裏座の関係

対象となる42軒全ての民家において、二番座の西側が表座と裏座に接続する。二番座の西側半間で表座と裏座を接続する民家(図2-a)は40軒であり、このうち1軒(型C)は、二番座

で仏壇の西隣が表座と裏座を接続する(図3-K1_19)。他に、二番座の西側一間で接続する民家(図2-b)は1軒(型B-1)(図3-K2_10)、一間半で接続する民家は1軒(型B-1)(図3-K3_09)である。二番座の西側は、接続の位置に多少の差異はあるが、構造に関係なく全ての民家において表座と裏座を接続するのりしる空間といえる(図3)。

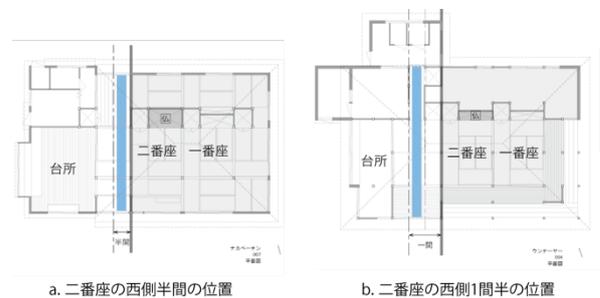


図2 二番座の西側で接続する民家の例

4-2 二番座の西側と主屋南外部への接続

二番座の西側半間に南外部への出入口がある民家は33軒、このうち玄関がある民家は9軒(型Cは4軒、型D-1は2軒、型E-1は3軒)である。増改築がなされた民家である型C、D、Eにおいて玄関がみられる。南外部への出入口が二番座の西側一間半にある民家は1軒(図3-K6_31)、二番座の西側半間に南外部への出入口がない民家は8軒(型A-1は2軒、型B-1は4軒、型Cは2軒、型E-1は1軒)である。二番座の西側には、南外部への出入口がほとんどの民家で存在し、玄関が設置されることが多い。

4-3 二番座に対する台所の位置

台所は、42軒全ての民家で二番座より西側に位置し、炊事屋として主屋の西側に配置していた¹⁾頃と同様の位置関係である。さらに、南北方向では、表座と裏座を分ける東西の帯(仏壇を含む)から北側に位置する民家は9軒(図3-a-1)、南側に位置する民家は18軒(図3-a-2)

Characteristics of the western part of the traditional Ryukyu Minka house
in Kushihiin Area of the Izena Village
Chihoko SEKI and Kenichi SHINOZAKI

(型A-1は1軒, 型B-1は10軒, 型Cは4軒, 型D-1は2軒, 型E-1は1軒), 東西の帯の上にある民家が15軒である。台所が東西の帯の南側から裏座の北面に渡る民家は11軒(型A-1は2軒, 型B-1が9軒)(図3-a-3), 南面から北側に渡る民家は2軒(型C, E-1), 帯上にあり南にも北にも面していない民家は2軒(型A-1, B-1)である。型A-1では, 台所が東西の帯よりも北側にある民家が最多の5軒であり, 型B-1では, 台所が東西の帯よりも南側にある民家が最多の10軒であることから, 伝統的な形式の民家において台所は北側にあり, 民家の周囲をRC(CB)壁で固め改修を加えた民家においては台所が南側にあることが多いことが分かる。

4-4 便所の位置

便所が二番座より西側に位置する民家は32軒, 東側に位置する民家は2軒(型B-1, C)である。表座と裏座を分ける東西の帯から北側に位置する民家は30軒, 南側に位置する民家は4軒(型A-1は3軒, 型B-1は1軒)である。付属屋として独立していた頃と同様の方位性があり, 主屋の北西に位置すると推測する。

4-5 浴室の位置

浴室が二番座より西側に位置する民家は27軒, 東側に位置する民家は2軒(型B-1, C)である。また, 浴室が東西の帯から北側に位置する民家は27軒, 南側に位置する民家は2軒(型A-1, B-1)である。浴室は便所と同様に主屋の北西に位置することが多く, 配管などの都合で便所の近くに浴室を配置すると推測する。

5 まとめ

民家の構造によらず, 表座と裏座をつなぐ二番座の西側の空間が存在する。また, 二番座の西側の空間は生活機能の室と二番座を繋ぎ, 南外部への出入口を持つことが多く, 玄関とされることもある。台所は全ての民家で二番座よりも西側に位置し, 特に伝統的な型A-1では民家北側に位置することが多く, 改修がなされた型B-1では南に位置することが多い。浴室と便所は, 付属屋が北西にあることと同様にほとんどの民家で主屋の北西に位置する。

「謝辞」

本研究は, 東京工業大学藤井晴行研究室と日本大学生産工学部篠崎研究室による共同の調査・研究に基づいている。関係者に謝意を表す。

「注釈」

注1) 東京工業大学藤井晴行研究室と日本大学生産工学部篠崎研究室による共同の調査・研究の延長である。

注2) 伊是名集落の北側を後辺(くしひん), 南側を前辺(めいひん)と呼ぶ。

「参考文献」

- 武者英二:日本の民家 調査報告書集成16 九州地方の民家, 東洋書林pp38, 1990
- 大久保宗, 藤井晴行, 篠崎健一, 沖縄伊是名集落民家の空間構成への住意識の現われ-空間図式と建築の実体との結びつきに関する研究 その1-, 日本建築学会大会学術講演梗概集, p581, 表1, 2015
- 佐藤幸峰, 藤井晴行, 篠崎健一, 民家の構造と南建具, 雨端空間の関係-伊是名集落後辺伝統的民家の実測調査に基づく探求その3-, 日本建築学会大会学術講演梗概集表1, 2018, No. 5510

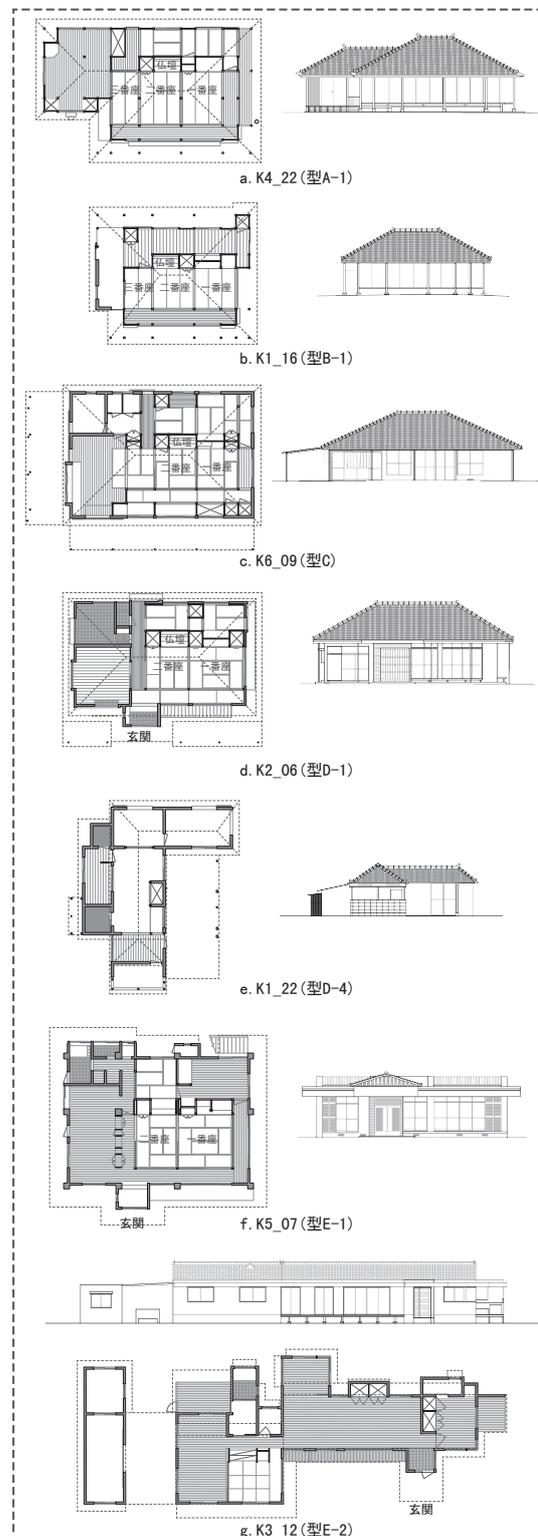


図1 後辺民家の構造種別

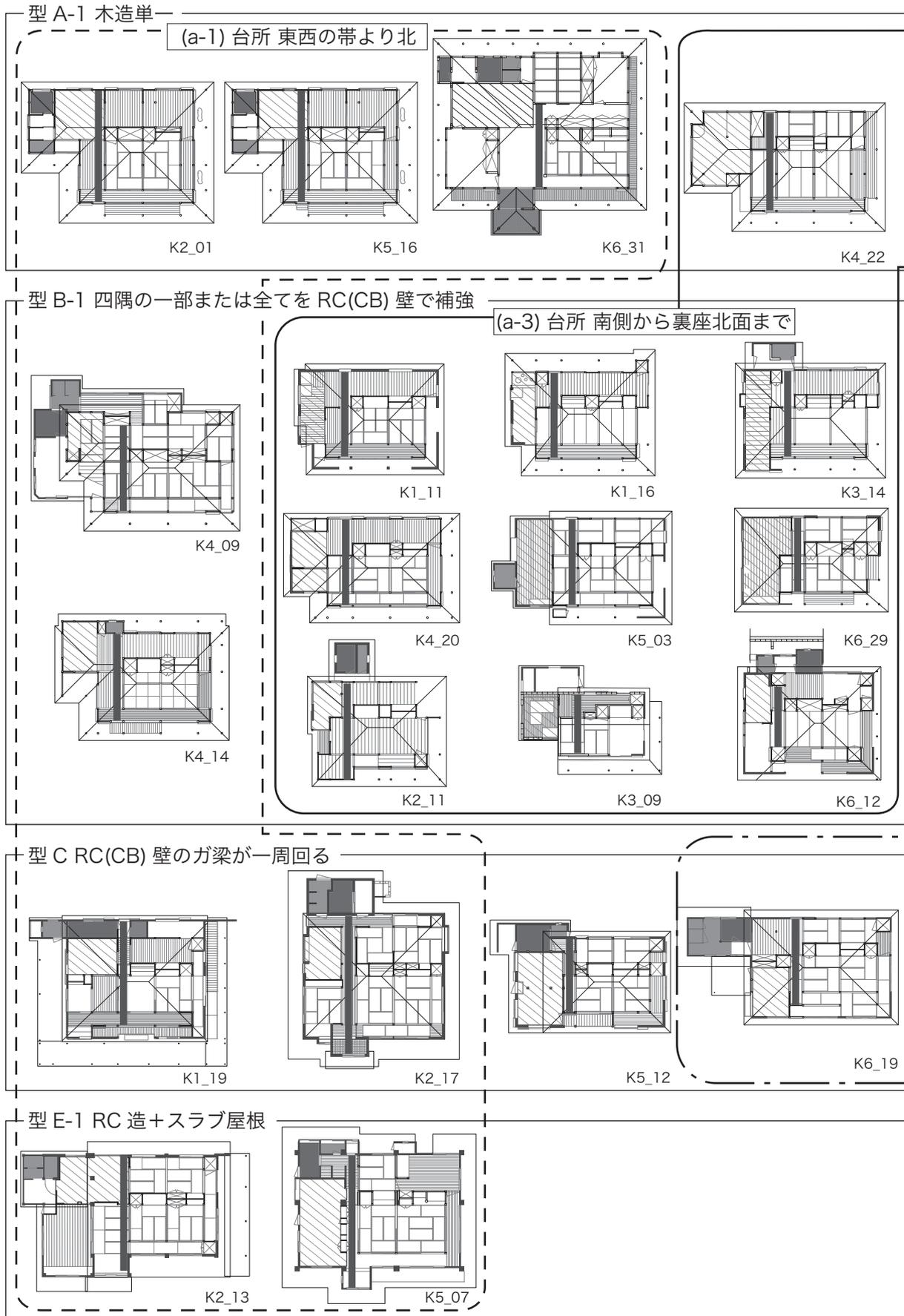


図3 伊是名村後辺民家 平面図 (S=1/850)

